

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490
 FAX (078) 361-4539
<http://nssk-kobeshoten.org/> 振替口座 01110-2-10517

2013年 4月

復活節

主イエス・キリストの御復活

～単なる憧れではなく、事実として～

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」(ヨハネによる福音書 11:25-27)

司祭 ミカエル 小南 晃

皆さん、イースターおめでとうございます。

—十字架につけられて殺された主イエス・キリストは、三日目に復活された—このメッセージこそがキリスト教の福音の根本です。

使徒パウロは次のように語っています。「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりのわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりの三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。」

(Iコリント15:3-5)

驚くべき主のご復活

今、「復活」はキリスト教の一番の根本と申しました。しかし「復活」はイエスの時代、ファリサイ派の人々をはじめ、多くの人々は信じていません。

またキリスト教以外でも、靈魂の不滅など、死んだ後の何らかの命について語っています。ではキリスト教の復活の使信の独特なところはどこにあるのでしょうか。

ヨハネ福音書に、主イエスとマルタと言う女性の次のような対話があります。兄弟ラザロの死を嘆くマルタにイエスは言います。「あなたの兄弟は復活する」。それに対して、マルタは、「終わりの日の復活の時に復活することは存じております」と答えます。(ヨハネ11:23-24)



洗礼によって私たちはキリストと共に葬られ、キリストと共に新しい命に生きるようになります。3月31日(復活日)

即ち、今も申したように、復活についての信仰は持っているわけです。イエスは念を押すかのように、彼女に「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる」と告げました。冒頭に引用したヨハネ福音書のみ言葉です。それに対してマルタも「はい、主よ・・・」としっかりと答えました。(ヨハネ11:25-27)

しかしイエスが兄弟ラザロの墓

の石を取りのけるように言われた時、マルタはつい本音を口にします。「主よ、四日もたっていますから、もうにおいます」。(ヨハネ11:39)

はるかに超えた喜び

しかし私たちは、恐らくこのマルタを笑えないでしょう。

「わたしを信じる者は死んでも生きる。生きていて私を信じる者はだれも、決して死ぬことはない」。この言葉を前にしては、マルタならずとも、私たちは、やはり心の中で「そんな無茶な・・・」と思わずにはいられないのです。

しかし、主イエス・キリストがもたらして下さった「復活」は、そうした私たちの思い描くことの出来るところのものを、はるかに超えたものなのです。だからこそ、復活の主に出会った弟子たちは、人生そのものが180度転換するような驚きに打たれ、新たな力を与えられて世界に宣教していったのでした。

私たちには単なる憧れではなく、溢れるような喜びと命をもたらす「復活」が事実として与えられているのです。それに応じて、共に主の器として愛の業に励んで参りたいと思います。

「この世の生活でキリストに望みをかけているだけだとすれば、わたしたちはすべての人の中で最も惨めな者です。しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となられました」(Iコリント 15:19-20)

定例集会

日 午前7時 早朝 聖餐式
 " 9時15分 教会 学校
 " 10時30分 聖餐式・説教
 午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
 土 午前10時30分 教会掃除
 (ご奉仕をお願いします)